

江戸時代末期の道標
設置者 不明(倉敷松島の住民?)
世話人 高橋幸太郎、三宅辰太郎
設置年月不明

平成29年春、この道路沿い西側の宅地開発が行われ、開発業者から私有地内にある道標一基を撤去処分する旨の申し出があった。

しかし地元町民が立ち上がり、当時の庭瀬かいわい案内人会長香田氏のご支援と、岡山市議会議員赤木一雄氏、市役所及び開発業者各位の協力により、本来の位置より東へ30cm移動する形で永久保存できることになった。

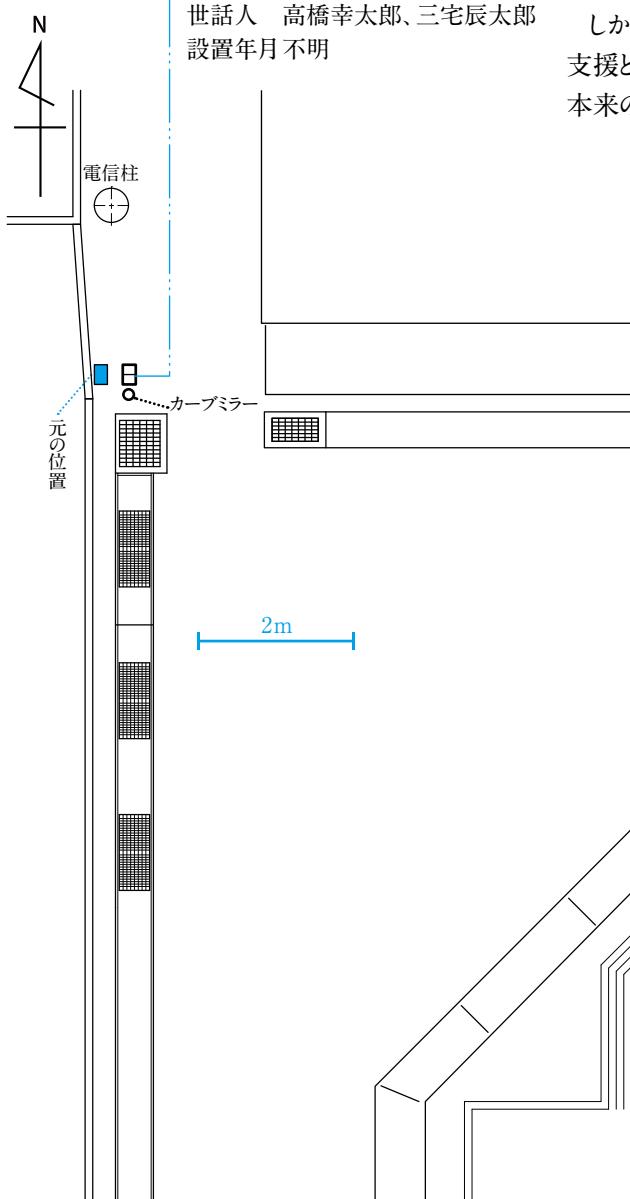
平成29年9月8日 西向町内会 坪井慈朗談

移設前の様子



道路

2m



昭和の遺産

この道路は太平洋戦争の前に本土防衛のため拡幅整備され、この曲がり角は大砲が通れるように修築された。
(明治28年、大日本帝国陸軍発行の2万分1地形図にこの隅切りはない)

